

★ 茶 病虫害情報（炭そ病）

6月中旬の巡回調査で、茶の炭そ病は山城、丹波で平年比多い発生状況でした。
発病葉は落葉しやすく、成葉の機能低下により樹勢を衰えさせる原因となります。多
発している茶園では、防除を徹底しましょう。

1 発生状況

6月13～18日に行った巡回調査では、1㎡枠の調査において発病葉数が1㎡当たり、山城で8.3葉、丹波で8.3葉と、過去10年間の中で最も多い値でした。また、発生ほ場率も、山城で90.0%、丹波で83.3%と両地域とも過去10年間で最も高い値でした。

丹後地域は例年並の値ですが、天候によって増加する恐れがあるので、注意しましょう。

表 6月の巡回調査結果

地域	項目	平年比	本年	平年値
山城	病葉数(枚/㎡)	多	8.3	2.4
	発生ほ場率(%)	多	90.0	30.6
丹波	病葉数(枚/㎡)	多	8.3	1.4
	発生ほ場率(%)	多	83.3	38.5
丹後	病葉数(枚/㎡)	並	0.5	1.4
	発生ほ場率(%)	並	25.0	35.7

2 防除上の留意点

- ① 本病は、5月～10月までの長期にわたり発生し、特に二番茶芽と秋芽に発生が多いです。
- ② 本病が感染するのは新葉に限られ、新芽生育期に降雨が続くと発生が多くなります。
- ③ 伝染源は、摘採されずに残った前茶期の病葉です。
- ④ 新芽の開葉期に毛茸(じ)に感染し、約20日後に病斑を形成します。
- ⑤ 同一系統の薬剤の連用は避け、降雨前の薬剤防除に心掛けましょう。
- ⑥ 防除適期は、三番茶芽の第1～2葉開葉期です。



図 茶炭そ病の病徴